

# 釧路川水系流域治水プロジェクト2.0【位置図】

～タンチョウと人が共存する釧路川を洪水から守るための治水対策の推進～

- 気候変動の影響を踏まえ、上流部の屈斜路湖・下流部の釧路湿原など広大な自然環境がもつ貯留・遊水効果を保全するとともに、釧路川流域の事前防災対策をより一層進める必要がある。国管理区間においては、気候変動後（2℃上昇）においても戦後最大洪水である昭和35年3月洪水と同程度の治水安全度を確保し、洪水による災害の発生の防止または軽減を図る。
- 気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化、流域の土地利用の変遷等を踏まえ、河道掘削や堤防整備等、更なる治水対策を推進する。その実施にあたっては、釧路湿原においてラムサール条約登録（1980年）前の湿原環境の再生を目指し、今後、旧川復元や湿原再生の自然再生事業に取り組む等により、広大な自然環境がもつ貯留・遊水効果等の多様な機能を活かすグリーンインフラの取組についても引き続き推進する。

## ● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

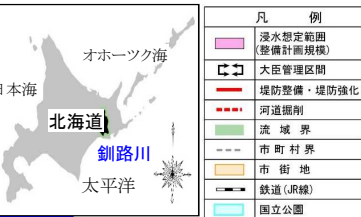
- ・堤防整備、河道掘削【気候変動影響に対応した整備】
- ・下水道雨水管等の整備
- ・雨水貯留浸透施設の整備促進
- ・土砂災害対策（砂防関係施設の整備 等）
- ・治山対策、森林整備
- ・内水被害軽減対策
- ・釧路湿原や屈斜路湖など、貯留・遊水効果がある自然地の保全等
- ・インフラDX活用



釧路川流域の市街地を守る堤防整備・河道掘削  
(釧路開発建設部、釧路総合振興局)



流入支川の堆積土砂撤去状況



海岸における事業間連携を通じた土砂の有効活用



## ● 被害対象を減少させるための対策

- ・災害リスクを考慮した居住誘導区域の設定、まちづくり（立地適正化計画）
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
- ・釧路川流域に建築する人への災害リスク情報の提供
- ・釧路湿原など自然地の保全 等



立地適正化計画（釧路市）

## ● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・地域住民を対象とした防災研修会や避難訓練の実施
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画・訓練等に関する取組を促進
- ・水防資機材の充実・維持
- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組
- ・ハザードマップの作成、充実と周知
- ・内水ハザードマップの作成
- ・タイムラインの活用と精度向上（流域タイムラインの作成等）
- ・防災教育の実施
- ・重要水防箇所の共同点検
- ・防災気象情報の利活用促進等
- ・自治体による防災情報アプリ活用
- ・三次元管内図の整備、BIM/CIM設計モデルの活用



三次元管内図の活用（釧路開発建設部）



防災学習の推進（標茶町）



町内会での検討状況

### 氾濫を防ぐ・減らす

#### ○気候変動を踏まえた治水計画への見直し

(2℃上昇下でも目標安全度維持)

##### <具体の取組>

- ・堤防整備、河道掘削の推進
- ・雨水貯留浸透施設等の整備促進 【検討中】  
(校庭貯留、調整池の整備、既存施設の増強等)

##### <継続して取組>

- ・堤防整備
- ・下水道雨水管等の整備
- ・土砂災害対策(砂防関係施設の整備 等)
- ・治山対策、森林整備
- ・内水被害軽減対策
- ・釧路湿原や屈斜路湖など、貯留・遊水効果がある自然地の保全 等

#### ○既存ストックの徹底活用

##### <具体の取組>

- ・インフラDXの活用による河川管理施設の品質確保と適切な機能維持
- ・SMART-GrassやAI/Eye Riverの活用・効率化から早期修繕による施設機能維持の向上(DX)
- ・水閘門施設の自動化・遠隔化等(DX)

### 被害対象を減らす

#### ○気候変動による被害拡大を減少させるための対策

(2℃上昇下でも目標安全度維持)

##### <継続して取組>

- ・災害リスクを考慮した居住誘導区域の設定、まちづくり(立地適正化計画)
- ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討
- ・釧路川流域に建築する人への災害リスク情報の提供

### 被害の軽減・早期復旧・復興

#### ○気候変動を考慮した河川整備計画に基づくソフト対策

(2℃上昇下でも目標安全度維持)

##### <具体の取組>

- ・自治体間の連携を組み入れたタイムラインの作成 【検討中】
- ・流域タイムラインの運用と精度向上
- ・三次元河川管内図の整備による河川管理の高度化・効率化
- ・BIM/CIM適用による三次元設計モデルの活用(DX)
- ・内水ハザードマップの作成

##### <継続して取組>

- ・地域住民を対象とした防災研修会や避難訓練の実施
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画・訓練等に関する取組を促進
- ・防災教育の実施
- ・粘り強い河川堤防の検討
- ・水防資機材の充実・維持
- ・水害リスク空白域の解消に向けた取組
- ・防災気象情報の利活用促進 等

#### ○インフラDX等における新技術の活用

##### <具体の取組>

- ・自治体による地震津波等も含めた防災情報アプリの活用

## 釧路川水系外流域治水協議会

計画：「水災害の自分事化」と流域に視野を広げることに係る令和6年度の取組計画

流域にも視野を広げる  
(自分のためにも、みんなのためにも)

### 連携活動

- 関係機関と合同で重要水防箇所を巡視し、水防災に関する認識および情報を共有  
(釧路市、標茶町、弟子屈町で台風期前に実施)
- 建設業協会等と連携した水害・土砂災害に関する啓発活動を実施  
(台風期・災害対策車両展示と流域治水PR)

### 流域治水の広報

- 流域市町村で実施されるイベントの来場者にパネル、リーフレットを使用し啓発活動を実施  
(5市町村、各1回)
- 広報誌で水害・土砂災害に関する啓発活動を実施(5市町村、各1回(台風期))
- 開建HP、SNSで水害・土砂災害に関する啓発活動を実施(年3回)

### 教育活動

- 自主防災組織等からの依頼による防災出前講座(2回、100人程度)
- 小中学校への防災教育・マイ・タイムラインを活用した出前講座等の開催(2回、120人程度)
- 大学機関と連携した防災学習の実施(検討中)(1回、30人程度)

### リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害計画区域等の公表(●地区)
- 洪水・土砂災害ハザードマップWeb版の運用
- 避難場所や経路等に関する情報の周知(気象・防災情報の提供)
- 緊急速報メールや市町村独自に運用する防災アプリを活用して市民へ情報提供
- メディアと連携による洪水・土砂災害情報の提供

### 訓練活動

- 住民参加型の避難訓練を実施(1町、1回、40人程度)
- ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進の取組

### 水防活動の支援

- 災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化

### 水災害対策の支援

- 防災メール(要登録)でリアルタイムに気象情報や避難情報を入手する  
(個人向け)

### 計画策定

- 防災指針(立地適正化計画)の作成・公表(1市1町 公表済み)
- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

計画策定や具体行動の支援中心

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

周知、連携活動  
中心

### ②自分事と捉えることを促す








水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

情報提供、教育  
活動中心

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む  
主体が増える

取り組み・主対象		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水災害、流域治水の広報   地域 個人   企業・団体	● 開建HP、SNSで水害・土砂災害を啓発 (出水期)	● 市町村広報誌、開建HP、SNSで水害・土砂災害を啓発 (台風期)		● 開建HP、SNSで水害・土砂災害を啓発 (融雪期)
	◎連携活動   地域 個人	関係機関合同で重要水防箇所水害・土砂災害に関する啓発活動 	建設業協会等と連携した水害・土砂災害に関する啓発活動 ●		
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供   地域 個人   企業・団体	浸水想定区域、土砂災害警戒区域等の公表、洪水・土砂災害ハザードマップの更新、配布等 			
		避難場所や経路等に関する情報の周知、緊急速報メール・防災アプリで住民にプッシュ型情報発信、メディア連携 			
	◎教育活動   地域 個人		防災出前講座 		
	◎訓練活動   地域 個人		● 住民参加型の避難訓練	● 小中学校における防災教育、出前授業	
		ハザードマップの周知および住民の水害・土砂災害リスクに対する理解促進 			
③ 行動を誘発する	◎計画策定   地域 個人   企業・団体	要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保 			
	◎水災害対策の支援   個人	● 市民への土のうの事前配布			
	◎水防活動の支援   地域 個人   企業・団体	災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化 			

## 釧路川水系外流域治水協議会

結果報告：「自分事化」につながる取り組み事例

※本資料はR5年度の活動状況写真等を使用した『イメージデータ』です

流域にも視野を広げる（自分のためにも、みんなのためにも）

### 連携活動



○関係機関と合同で重要水防箇所を巡視し、水防災に関する認識および情報を共有  
(釧路市、標茶町、弟子屈町でR5.7月に実施)

### 教育活動



○小中学校への防災教育・マイ・タイムラインを活用した出前講座等の開催  
(2回、120人程度)

### 訓練活動



○住民参加型の避難訓練を実施  
(1町、1回、40人程度)

### 水防活動の支援

○災害時の応援協定と水防団の情報伝達体制の強化

### 流域治水の広報



○流域市町村で実施されるイベントの来場者にパネル、リーフレットを使用し啓発活動を実施  
(5市町村、各1回)

### リスク情報等の提供

- 浸水想定区域、土砂災害計画区域等の公表(●地区)
- 洪水・土砂災害ハザードマップWeb版の運用
- 避難場所や経路等に関する情報の周知(気象・防災情報の提供)
- 緊急速報メールや市町村独自に運用する防災アプリを活用して市民へ情報提供
- メディアと連携による洪水・土砂災害情報の提供

### 水災害対策の支援

○防災メール(要登録)でリアルタイムに気象情報や避難情報入手する(個人向け)

### 計画策定

- 防災指針(立地適正化計画)の作成・公表(1市1町 公表済み)
- 要配慮者施設等の避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

計画策定や具体行動の支援中心

流域治水に取り組む主体が増える

### ①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

周知、連携活動中心

### ②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

情報提供、教育活動中心

### ③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。